

奥の細道むすびの地「大垣」 十六万市民投句

一般の部



令和五年九月度 入賞句一覧

投句数 五百三十五句

特選

名和 永山 選

傾きてなほおさまらぬ西日かな

岐阜市 花川 和久

季語「西日」は真夏の太陽が西に傾いていること。その太陽が、なかなか沈まない。その感覚は、暑さ故なのだろう。「これほどまでに暑いんだから、早く沈んでくれ」と、思えば思うほど、なかなか沈まない西日なのである。

秋めくや風転がれる交差点

養老郡養老町 佐藤 咲楽

季語「秋めく」は、時候の季語で「秋らしくなってきた」という意。こうした実体のない季語は「具体的な物や景」で示すのがよいとされる。掲句は「風転がれる交差点」と、交差点の景で表した。しかも、目に見えない「風」が転がっているのである。交差点で信号待ちでもしていたのだろうか。背後から風が吹いてきて、少し涼しさを感じたのだ。その風が交差点へと抜けていったのだ。

刻々と雲にひろがる秋夕焼

大垣市 北村 陽子

季語「秋夕焼」は、夏の夕焼けとは違って、少し淋しさを持っていているように感じる。なぜなら夏の夕焼けは、真っ赤に燃えているが、秋の夕焼けは、太陽から遠ざかるとだんだん橙色や紫色を帯び、グラデーションをなしているからである。その色の変化を、上五「刻々と」に託したのだ。雲に広がる秋夕焼けを、一度目にしてみてください。感動しますよ。

秀逸

逢ひにゆく渡舟を待てば虫のこゑ

安八郡輪之内町 野村 照子

ひとときを星に空借る花火かな

養老郡養老町 田中 紫香

深井戸の清水滔々結びの地

大垣市 伊藤 英司

雲の峰くづれて山の影深し

大垣市 岡田 あや子

裏門の門錆びぬ萩みだれ

大垣市 白井 秀子

ホームズの推理は光る霧の街

養老郡養老町 松永 智志

箱膳の真中陣どる新豆腐

大垣市 高津 喜久子

朝霧を抜け定期便やつと着く

大垣市 村井 娑婆

叢雲に溺れさうなる今日の月

大垣市 北浦 典子

朝顔の蔓あを空に溺れさう

岐阜市 堀江 美州

入選

新涼の館混みあふ企画展

養老郡養老町

田中 秀草

慾齋の緻密な図説秋灯

養老郡養老町

田中 紫香

新涼や新しき鍵すつと入る

大垣市

傍島 豊子

紅殻のあせし我が家に盆の花

不破郡垂井町

児玉 信子

忘却を諭す鐘の音長崎忌

大垣市

北島 暁子

レモンの実徐々に膨らみ涼を呼び

揖斐郡池田町

市川 香

木槿咲く赴任帰りを待ちつづけ

大垣市

小林 研

霧の中子を呼ぶ牛の声頻り

大垣市

宮上 美濃留

軋みたる仮設階段こぼれ萩

大垣市

立川 昌子

霧の道白樺の白浮かびけり

本巣市

山田 香山

考に似て妣もおとなし盆供養

大垣市

村瀬 春子

湯上りに独酌の友虫の声

大垣市

平野 順一

口聞かぬ父へ一献衣被

大垣市

藤岡 啓子

引き出しに成績表とどんぐりと

大垣市

安田 むつこ

一人逝きまたひとり去る暮の秋

大垣市

平野 きぬよ

日本での時は御陵小鳥来る

奈良県奈良市

やまとなでしこ

諸人も流人も仰ぐ星月夜

安八郡輪之内町

野村 照子

伊吹嶺の秋大夕焼呑み干せる

養老郡養老町

佐藤 咲楽

白桃や恥じらいひとつ手にのせて

大阪府東大阪市

森 佳月

手のひらの豆腐半丁今朝の秋

養老郡養老町

大橋 与志

選者吟

一枝に賭くる心や松手入

永山

一般の部

